

“天の父母様の夢、私は必ず成し遂げます！”

ヤンキー大会 40 周年記念式で真のお母様がみ言

6月5日午前、真のお母様を米国・ニューヨークのベルベディア修練所にお迎えし、ヤンキースタジアム大会 40 周年を記念する式典「God Bless America Family Festival」が盛大に開催され、家庭連合の指導者や地元の祝福家庭など約 3000 人が参加しました。

1976 年 6 月 1 日、アメリカ建国 200 周年記念行事の一環として、ヤンキースタジアム大会が悪天候の試練を乗り越えて開催。真のお父様は「アメリカは神様の希望」と題して講演され、「私は病に蝕まれていくアメリカに、医者として、消防士として来た」と訴えられました。今回の記念式が開かれたベルベディアは同大会の翌日に祝勝会が開催された歴史的な場所であり、真の父母様はここで多くの指導者と会ってアメリカの行くべき道を説かれるとともに、食口に対して重要なみ言をたくさん語ってこられました。

以下、真のお母様が記念式で語られたみ言から、一部を抜粋して紹介します。

* * *

(1976 年当時) 真の父母様と一線と共に歩んだ多くの古い食口たちがこの場に集まったことを知っています。今日、このアメリカは、どうあるべきでしょうか？今は外的に起こっている事柄について見る時、天とだんだん離れていっています。今日、この時代に生きている皆さんはどのようにしなくてはなりませんか？天が願われる願いは何でしょうか？

天の父母様（神様）の夢、真の父母様の夢は人類一大家族、73 億人類を抱き、平和で幸福な世界（を成すこと）なのです。天の父母様が夢に描いてこられた、6000 年ぶりの初めての真の父母様の顕現を通して、新しく祝福を受けた子女たちによって、新しい心情文化革命を起こすのです。

天の父母様のご苦労と、真の父母様の愛の前に、深く深く感謝しながら生活する、天の父母様のその限りない愛の前に、忠と孝を尽くすそのような人生、そのような国、そのような中心にアメリカがあると



いうことを忘れてはいけません！

皆さんは、真の父母様によって長子国家として宣布されました。天の父母様の前に 200 にも及ぶ多くの国々があります。その国々の内で長兄の立場にいます。それならば、天の父母様を喜ばせて差し上げるには、兄である長子が全世界の兄弟を抱かなければなりません。自分だけ豊かに暮らそうとしてはいけません。天の父母様を喜ばせて差し上げるためには、兄弟みな一つとなって、皆が豊かに暮らすことのできる道へと導いてあげなければならないのが、兄の立場です。

今日、アメリカがそのような立場に進んでいますか？真の父母様の圈にいる私たちは、そのようにし

ています。しかし外的にアメリカは、アメリカの政治家や国民は、そのような考えをできずにいます。自己中心的に過ごしています。自分の国だけが豊かに暮らせればよいと思っています。しかし、世界の中で豊かに暮らそうとすれば、自分だけではいけません。皆がともに豊かに暮らさなければなりません。それを教育する皆さんとなることを願います。

ですから、皆さんは、堂々と真の父母様を証ししなければなりません。真の父母様を誇らなければなりません。それが人類の夢であり、天の父母様の夢をなして差し上げる最も早い道です。

私はきょう、ここに来ながら様々な考えをめぐらせました。どうせなら皆さんが真の父母様と一つと

なった場で神様（天の父母様）の願い、夢を叶えて差し上げる、この国になれたらよいと思いました。しかし解決すべき問題がたくさんあると思います。でも私は必ず成し遂げます！皆さんはどうですか？

ですから韓国の清平を中心として、世界の中で中心になることができ、世界中の人に見せることができ、後代、未来の人類のために、真の父母様の業績を燦爛と明かすことが出来るようにします。

ここに同参しますか？今日、私たちは毎日毎日が希望です。毎日毎日が発展です。毎日毎日が楽しみです。このような生活を皆さんも共に同参してください。ですから天が記憶し、世界人類が誇りに思うアメリカとなることを懇切に天の前に願いながら、祝福する次第です。

海外での経験を糧に日本での活躍誓う

第三期天一国青年宣教師帰国報告修練会 & VISION2020 出発式



- ①修了式後に記念撮影
- ②修了式で講話を行う徳野会長
- ③徳野会長の講話を聴く宣教師たち
- ④徳野会長から修了証が授与された
- ⑤開会式でメッセージを語る田中副会長
- ⑥総括を行う赤石僚国際宣教部長
- ⑦講話を行う篠崎幸郎伝道部長
- ⑧進行を担当した飯田智史部長
- ⑨年間活動報告の様子
- ⑩和動会で“バウンス”を披露するアジアチーム

【修練生の感想】

■この修練会中ずっと講義や証しが終わるたびに胸がいっぱいになり、祈祷室に行かずにはいられない自分がありました。どの講義も愛に溢れていて、また天の願いをひしひしと感じて、とてもじゃないけれど自分一人では消化することはできませんでした。祈祷室に行き、天に対して正直に祈りました。(K・M)

■改めて天一国青年宣教師としての誇り、自覚、責任を再確認させられた期間でした。命を懸けてでも天一国を創建することのできる勇士を真のお母様は探しておられ、今、私たちはそこに声をあげて集った孝子、孝女として、お母様と共に同じように決して揺るがない決意を持って歩み続けていきたいです。(U・K)

■1年間という宣教期間は、私にとってかけがえない宝物です。この1年間を通して感じたことを私は必ずこの日本で実を結ばせていきます。そして日本での勝利が台湾の勝利につながるように、どんな歩みでも感謝して前進していきます。受講決定3人、必ず勝利していきます!! (C・K)

6月14日～18日、宮崎台国際研修センター（川崎市）において「第三期天一国青年宣教師帰国報告修練会 & VISION2020 出発式」が行われ、帰国宣教師40人が参加しました。3月に学生を中心に約半数の宣教師が帰国しましたが、この度現地で残って歩んでいたメンバーが帰国。1年間の歩みを総括すると同時に、今後の日本での歩みに向けて決意する修練会となりました（ヨーロッパの宣教師3人は滞在延長）。

宣教活動を終えた宣教師たちは多くのことを体験して帰国しています。国ごとに活動報告する時間を持ち、お互いの歩みを称えると同時に、環境が全然違う国での様々な歩み方があることを学びました。

2日目の証し会では、全体の前で宣教師10人が代表して宣教地での歩みを報告。わずか15分の持ち時間の中で、天の父母様や真の父母様を任地国の人々に伝えようと身もだしながら歩んだ1年間の振り返り、試練を乗り越えて成長してきた姿を見せていました。

5月15日、韓国・清平の天正宮博物館で「真の父母様招請 日本天一国青年宣教師特別午餐」が行われましたが、今回の参加者の大半は宣教期間中だったため参席することができませんでした。お母様が午餐会の後、「今も現地では歩んでいるのね」と心に留めてくださったことを田中富広副会長を通して知り、とても感激していました。

宣教師たちは午餐会のダイジェスト映像を視聴しましたが、その中で真のお母様が「皆さんがいる限り真の父母様の環境圏は健在です」と語られているのを知り、現地で歩み続けることがお母様の支えになっていたのだと実感。また、宣教師を「天一国の勇兵」と呼んで期待をかけて下さるお母様の心情を肌で感じ、その場に参加しているような感覚を覚えました。

久しぶりに日本に帰って来た宣教師たちは、日本の摂理的動向をほとんど把握していない状態で、昨年教会が「世界平和統一家庭連合」として出帆したこともほとん

ど実感がありません。

そんな宣教師たちに対し、田中副会長が毎日修練会に足を運び、現在の日本の摂理について、また二世圏のビジョンについて解説。真のお母様が成し遂げられた様々な摂理、二世圏の状況や今後の目標などについて学びながら、宣教師たちは日本の二世圏の歩みに希望を持ちました。

海外で訓練を受けて帰ってきた宣教師たちは日本にとって宝と言えます。徳野英治会長が修了証授与式で、「これからの任地国は海外ではなく日本である」と明確に語り、天一国青年宣教師の今後の活躍に大きな期待を表明しました。

その最初の歩みは、伝道40日路程（6月19日～7月28日）です。篠崎幸郎本部伝道部長らの講話を受けて準備し、任地を与えられ、一人が最低3件の受講決定をすることを目標に出発しました。現在首都圏を中心に全国10カ所で毎日歩んでいます。



地球の裏側で兄弟姉妹と出会い、“神の下の人類一大家族世界”痛感

アルゼンチン 天一国青年宣教師 R・K（女性）

アルゼンチンでは、現地のSTFメンバーなどとペアになって伝道の前線に出ていました。ペアは基本的に伝道の路程中は固定だったので、私は一人のSTF2年目の女の子と毎日前線に出ていました。彼女は明るい性格で、初対面でも仲良く話すことができる子でした。

その頃、私はスペイン語をまだあまり理解することができず、話すこともできなかったのですが、アンケートの時などは彼女にほとんどコミュニケーションをとってもらっていました。最初の頃は私の代わりにそうやってゲストに投入してくれることに対しての感謝の思いでいっぱいでしたが、長い時間を共に過ごしていく中で、彼女の悪い部分を見てしまうようになって、そこから葛藤の思いが沸いてきました。

言葉が分からないから、彼女がいつも何を喋っているのか、何を考えているのかも分からず、彼女に対する葛藤の思いや疑いの思いもどんどん大きくなっていってしまいました。

そのような日々が続く、最初の頃に二人の間にあった一体感はだんだんと無くなっていきました。しかし、自分の心の中では、「このままではいけない」という思いも強くなっていました。

やはり、ペアがお互いを信頼し合っていなければ神様も霊界も働くことができないし、二人の一体化が天の願いであると感じていました。私は、伝道前線の帰り道に自分の気持ちを素直に彼女に話そうと決めました。

辞書で単語を調べながら、「私はお母様の為に今ここに来ている。お母様を支えたい。お母様を喜ばせたい。天一国を必ず成したい…」とかなりカタコトでしたがストレートに伝えました。彼女は一生懸命に私の言葉を聞いて、理解してくれました。

そして彼女も私に辞書を使いながら彼女の心の内を話してくれました。「私もお母様を支えたい。だからここにいる。この道は険しい道けれども、私たちは忍耐して越えていこう…」という彼女の言葉を聞いたときに、涙が溢れました。

国籍も文化も肌の色も話す言葉も、ほとんど全てが私と彼女は違いますが、たった一つ「神様と真の父母様の娘である」ということは共通していました。親であられる天の父母様と真の父母様の為に天一国を成そうと決意している彼女を知り、日本では感じたことのなかった本然の姉妹であるという実感が溢れてきました。

アルゼンチンは、日本からも韓国からも一番遠い場所に位置する国の一つです。そこにもご父母様の愛は伝わっていることを知り、改めて真の父母様が全人類の父母であるということ強く感じました。



この時に感じた感動と、現地の姉妹とのご父母様を中心とした本然の姉妹の関係、またご父母様が全人類の父母であるという確信が、今後み旨を歩んでいく上での力となると思います。

このような体験をさせていただいたことを、神様、ご父母様、そして共に歩んでくれた姉妹に感謝しています。



ドミニカ共和国 天一国青年宣教師 H・H（女性）

く感じ理解するようになりました。私はその心情に涙しながら、彼らが天の父母様、真の父母様の心情を理解し親孝行する子女になれるように切実に祈りました。

入会して条件生活を始めた彼らに、どういう心情を感じているのか聞いてみました。1人は原理講義の中盤頃、主を証される前に夢で真のお父様にお会いして「再臨のメシヤは韓国人だ」と言われ、「ああ、この方がメシヤなんだ」と悟った霊的体験を告白。彼はそれ以降、より真剣に祈り求め、「ここで学ぶことは自分に必要なことだ」と改めて感じたと言いました。



もう1人は「血統転換をして祝福を受け、神様を中心とした家庭を成し、愛の完成を目指すことが、そのまま自分がやっ

ていく道になった。原理はその方法を教えてくれる」と言いました。

条件期間には、訓読や祈祷だけでなく、一緒に伝道にも連れて行って実践をしました。彼らはそうした活動を通して、喜びの中で生きる体験をしたと話していました。

彼らは友人伝道にも積極的に取り組んでいます。たった9カ月でここまで人が変わることに驚かされ、彼らの顔が最初の頃と全然違うので、信じられない気持ちになりました。彼らが礼拝に参加したとき、霊の親が私だと知って「兄弟だね」と言いあっている姿に感動しつつ、これを繰り返しながら“神の下の人類一大家族”、地上天国が成されていくのだと教えられました。

ドミニカ共和国がいち早く復帰されることを祈ります。

人を復帰するため精誠を尽くし天の心情に触れる

“世界の問題解決には父母の理念が不可欠”

徳野会長を招いて第 15 地区特別合同礼拝



- ① 合同礼拝で説教を行う徳野英治会長
- ② 合同礼拝に集まった教会員
- ③ 檀原家庭教会の特別集会で
- ④ 高校生から花束とプレゼントを受け取った徳野会長

6月18日から19日にかけて、徳野英治会長は第15地区（東関西）の奈良教区（檀原、かつらぎ両家庭教会）と京都教区を訪れ、「勇気をもって氏族伝道を進めよう」と呼び掛けました。今回は、19日に京都で行われた「第15地区特別合同礼拝」の様子を紹介します。



19日午前、会場となった京都市内のホールには、前日に徳野会長が巡回した奈良を除く京都、滋賀、三重の食口たちが、小雨が降りしきるなか朝早くから駆け付け、満員の約600人が集いました。礼拝の様子は各教会にインターネットで中継され、地元の食口全体が大きな恩恵を受けました。

合同礼拝は、開会宣言、「天一国の歌」讃美、代表報告祈祷の後、合唱など3つのエンターテインメントが披露されました。

熊谷栄佐雄第15地区長の挨拶に続き、大きな拍手で迎えられて徳野会長が登壇し、3つの観点からメッセージを語りました。その概要を紹介します。

まず、家庭連合の“ブランド”の一つである統一原理は本当に素晴らしい。高等な宗教ほど創造原理的な内容を説いているが、決定的な違いは堕落論があるということ。私たちは、サタンの正体を解明した唯一の宗教団体に属していることを自覚する必要がある。

私たちが持つ理念のレベルは相当高い。「神様はおられるのか。おられるとしたらどういう神様か」「人間は死んだらどうなるのか。死後の世界は本当にあるのか」「共産主義問題をどう考えるか。共産主義は正しいのか」といった根本問題に対し、私たちは明確に答えることができる。

2番目のポイントは、私たちは超宗教的団体であり、父母の宗教であるということ。兄弟げんかは親が收拾するように、世界の問題は父母の理念が無ければ解決できないので、あらゆる問題の解決は父母の宗教が責任を持たなければならない。ご利益よりも犠牲を説き、キリスト教徒以上に犠牲と奉仕の道を歩む私たちは、もっと自信を持つべきだ。

3番目は、結婚問題の解決。結婚しない男女が増えているが、男女は結婚しなければ人格完成しない。男性は神様の半分、女性は神様の半分。結婚を理念的に正しく伝えられるところが家庭連合であり、私たちの使命は大きい。

「父の日」のこの日、高校生の男女2人が、花束とプレゼントを徳野会長に贈呈。また、会場に集まったお父さんたち全員にも徳野会長から靴下がプレゼントされました。

合同礼拝は、最後に「母なる祖国に祝福あれ」を全体で合唱し、閉会しました。

真の父母様の心情世界を相続する道

青森教区で李海玉総会長夫人がメッセージ



- ① 礼拝会場は満席になった
- ② 説教を行う李海玉総会長夫人
- ③ 青年メンバーと有志による「無条件」のダンス
- ④ 説教に耳を傾ける参加者

6月19日、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長の代身として李海玉総会長夫人をお迎えし、青森市内の会場で「青森教区合同特別礼拝」が開催され、青森、八戸、弘前、上十三の各家庭教会から、新規・再復帰35人を含む約300人が参加しました。

李海玉夫人が説教の中で語った心情深いメッセージの一部を抜粋して紹介します。



霊界に行ったら、自分の地上での人生がすべてビデオのように観られると言います。想像してみてください。皆さんの地上生活が、自分のために食べて、寝て、買い物に行くだけの毎日であれば、どんなにつまらないものになるでしょうか。

牛や豚であれば、主人がエサをくれるかどうかだけを心配するでしょう。もし私たちが、きょう何を食べ、何を着ようかということだけ心配するとしたら、動物と同じレベルです。肉身生活においてどのようにしたら永遠の天の父母様と一つになれるか、真の父母様の心情世界を相続することができるか、そういう内容を毎日毎日考えていかなければなりません。

真のお父様は93歳まで生きられました。（33歳で亡くなった）イエス様は1回の十字架でしたが、お父様は牢獄の道を6回行かれながら、肉身の十字架よりもっと重い心情の十字架の道をイエス様よりも60年も長く行かれたのです。その犠牲の上に、いま皆さんがこの場にいます。

私たちが地上生活で持つ悩みの99.9%は意味のないものです。日本で生まれた皆さんが、お金がないからと言って飢え死にするでしょうか。「私は日本に生まれる」と自ら決意して生まれた人はいません。素晴らしい日本に生まれたこと自体、天の父母様に心から感謝しなければなりません。

あまりにも多くの愛を受ければ、それが特別だとは思わなくなります。皆さんが苦勞して大変なことがあるとしたら、それこそが祝福です。なぜかと言えば、天はその苦勞を通して、心情世界を相続させようとしてくださっているのです。苦勞を乗り越えて感謝することで、皆さんの人生は感動的で、誇ることでできるものになるでしょう。心情の相続ができなければ、霊界において関係がありません。重要な摂理の最後の峠を真の父母様と完全に一つとなって越えていくとき、皆さんは心情を相続することができるのです。

【参加者の感想】

■夫人のメッセージを受け、涙が止まりませんでした。これほど愛されていたのに気づかずにいた自分が情けなく、申し訳なかったです。ご父母様のメッセージを特別に青森の食口に届けてくださった宋龍天総会長ご夫妻に心から感謝申し上げます。（青森、婦人）

■説教は、天のメッセージでした。これまでの、そしてこれからの自分、家族、仲間、真の父母様、霊界、すべてが繋がりました。また、過去に流してきた涙を全て喜びの涙として変えていただいた時間でした。（弘前、婦人）



- ①日本赤十字社東京都支部で義援金の目録を手渡す李海玉常任顧問
- ②韓国の歌を歌いながら募金を呼び掛ける
- ③立ち止まって募金を行う男性
- ④募金活動を行った姜京熙会長（左端）と関係者

韓国婦人会が熊本の被災者のため募金活動

日本赤十字社へ寄付も

世界平和統一家庭連合の在日本韓国婦人会の代表が6月8日、東京・大久保の日本赤十字社東京都支部を訪れ、4月に発生した熊本地震の被災者のための義援金を手渡しました。

同婦人会は5月26、27、29日の3日間、東京・新宿駅前で熊本の被災者を支援するため募金活動を実施。集まった募金75万7000円のうち53万5000円を熊本在住の韓国人被災者に直接届ける一方、20万2000円をこの日、日本赤十字社に託しました。

赤十字社を訪れた同婦人会の李海玉常任顧問は「家庭連合の韓鶴子総裁は、隣人の痛みを自分の痛みだと感じることのできる真の愛の世界をつくらなければならないとされています。少額の寄付ですが、少しでも被災者の力になればと思います」と語りました。

それに対し、日本赤十字社東京都支部の大地山正明振興部長は「この寄付は、熊本県の市町村を通じて、被災者の方々に直接届けられます。皆さんの寄付が被害者に

とって大きな力になると信じています。韓鶴子総裁と大韓赤十字社を通じて寄付を送ってくださった韓国国民に感謝するとともに、炎天下の東京で募金活動をしてくださった在日本韓国婦人会の皆様に深く感謝します」と述べました。

姜京熙・同婦人会会長は「私たちが『WE LOVE JAPAN（私たちは、日本を愛しています）』『WE LOVE KUMAMOTO（私たちは、熊本を愛しています）』というスローガンを叫びながら募金を呼び掛けると、多くの方が寄付をしてくれました。今回の活動を通じて、韓国と日本の間には兄弟姉妹のような温かい情があることを感じました」と感想を述べています。

熊本地震が発生して間もない4月20日、真のお母様は熊本の被災者のために日本赤十字社を通して4000万円を寄付。また、被災した熊本教区の食口のために別途1000万円を贈られています。



- ①山上祈禱会の参加者 ②美しい緑の中を頂上に向かう
- ③祈禱会でメッセージを語る李海玉常任顧問（中央）
- ④持ち寄った昼食を囲んで団らんのひと時

東京・高尾山で世界平和と南北統一を祈る

「VISION2020 勝利と祖国光復のための山上祈禱会」

6月2日、東京在住の祝福家庭を中心とする韓国人のメンバー113人が集まり、東京の名山・高尾山で「VISION2020 勝利と祖国光復のための山上祈禱会」が行われました。

家庭連合の在日本韓国婦人会が主催し、平和統一聯合が後援したこのイベントは、全体で「私たちの願いは統一」と「オンマヤ・ヌナヤ」を歌いながらスタート。多くの日本人の登山客の関心も集めていました。

今回の祈禱会の発起人である李海玉・同婦人会常任顧問はメッセージの中で、「私たちの中心は、天の父母様と真の父母様です。私たちは常にそのことを忘れてはいけません」と呼び掛けました。

また、姜京熙・同婦人会会長は「日本に嫁いできた私たち韓国婦人は、単に子供を産んで、自分の家の暮らし

向きを考えるだけではありません。祖国・大韓民国のために何ができるかを考え、特に韓半島の南北統一のために努力しなければなりません」と強調しました。

その上で、「南北統一のためには、まず日本人に韓国語を教え、韓国文化を伝え、南北統一に対する関心呼び起こす必要があります。そして韓国民団と朝鮮総連という目に見えない“38度線”を取り除いて一つにすることが、統一の出発点です」と述べました。

祈禱会は、手に手を取って真の父母様の愛唱歌と一緒に歌いながら、南北統一を祈るとともに、内的心情の復活を確かめることができた感謝の集いとなりました。

同婦人会は、日本に在住する韓国人のための組織として、文化的なイベントやボランティア活動、生活相談などをしながら、在日同胞のサポートを行っています。

熊本の「神氏族メシヤ修練会」に 242 人が参加

真の父母様の心情を共有して再出発



- ① 神氏族メシヤ修練会の参加者
- ② 講義を行う矢野治佳伝道教育局長
- ③ 活発に交流する修練生
- ④ 力強く神氏族メシヤ宣誓書を読み上げる代表家庭



6月11～12日、九州の中央に位置する熊本県内のホテルで、第22回「神氏族メシヤ修練会」が第12、13地区合同で開催され、全体で242人（男性84人、女性158人）が集まり、夫婦参加は47組でした。

2014年10月に行われた第1回修練会で、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は「この修練会が始まったのは、天の摂理です。時が満ち、やればできる環境創造が成されました。この修練会は歴史のターニングポイントです」と語り、この修練会の意義を訴えました。

それ以降、修練会は主に韓国・清平で行われてきましたが、今年に入って千葉や大阪など国内でも相次いで開かれ、これまでスケジュールの合わなかった壮年などが積極的に参加。多くの祝福家庭が神氏族メシヤとして決意を新たに出發しています。

開講式では、徳野英治会長のメッセージ映像、朴鍾泌第12地区長の開会の挨拶があり、これから始まる修練会の重要性を共有。続いて、矢野治佳伝道教育局長が「神氏族メシヤ特別講座」を行い、日本における神氏族メシヤ摂理の方向性を明確に示しました。

昼食後は、篠崎幸郎・本部伝道部長の「伝道講座」、多田聰夫・本部家庭教育部長の「家庭教育講座」が行われました。

一方、会場となったホテルのはからいで、夫婦には2人部屋が準備され、「夫婦で様々な話が来て本当に良かった」という感想が多くありました。

2日目は、佐々木一成・本部教育局長が、神氏族メシヤの意義と価値や生活改善運動などについて解説。参加者からは「真の父母様の心情が伝わり、もう一度原点に返って再出發します」といった感想がたくさん寄せられました。

閉講式では、永井義行第13地区長が激励の挨拶に立ち、自らが神氏族メシヤとして出發する決意を表明。

続いて、神氏族メシヤ宣誓式が行われ、代表家庭が壇上で力強く宣誓書を読み上げました。続いて、徳野会長を代身して佐々木部長から修了証が地区・教区の代表に授与されました。

祝祷の後、全体で億萬歳四唱を行い、修練会は終了しました。

首都圏合同讃美礼拝を開催

「家族～温かい家庭～」をテーマに



- ① 説教を行う田中富広副会長
- ② ソプラノの独唱
- ③ 歓迎の讃美を行う聖歌隊
- ④ 会場が一つとなって全体讃美

6月18日、東京・渋谷の松濤本部礼拝堂において、広報局文化部主催による「第5回首都圏合同讃美礼拝」が開催されました。2010年の「第4回首都圏合同讃美礼拝」以降、各地区、教区、教会で讃美礼拝が展開されてきましたが、今回は家庭連合の新しい出發として、メインテーマに「家族～温かい家庭～」を掲げ、昨年の聖歌隊コンクールで入賞した3組の聖歌隊（大宮 Peaceful choir、渋谷グリーンハーモニー、天馬 Jr. クワイア）が中心となり、喜びと感動に満ちた素晴らしい讃美礼拝となりました。

プログラムは、歓迎の讃美から始まり、成約聖歌やゴスペル、オリジナル曲などの選曲で進められ全10曲が披露。また、音楽の奉仕としてソプラノの独唱がありました。

スクリーンに聖歌の歌詞や訓読のみ言が映し出され、聖歌隊の歌声と共に、一つひとつの言葉も参加者の心に染み込むものとなりました。全体で讃美する時間が多く設けられ、時には会場が一つになった涙の讃美も。神様の愛と聖霊に満ちた、清く貴い時間となりました。

田中富広副会長は説教で、「私たちは世界平和統一家庭連合、家庭の価値を最大限にベースにおいた国づくり

を考える群れです。ですから、私たちの家庭が、何よりも国を支える最小単位であるということが、学びの核心にあります」と強調。その上で、家族や結婚の意義、愛の完成に向けてどのように生きるべきか、祝福結婚の素晴らしさ等について、分かりやすく心に響くメッセージを語りました。

祝祷の後は、聖歌隊がリードする中、会場全体で聖歌38番「生命の泉のほとり」を元気に爽やかに讃美し、礼拝は終了しました。

【参加者の感想】

- 歌が心の扉を開いてくれる気がしました。そういう力を持っていると再確認しました（50代女性）。
- 渋谷の雑踏から抜けて、聖歌隊の歌声、み言…。「これが天国！」と思いました。（60代女性）。
- 素晴らしい歌声で、心が洗われる思いでした。（10代男性）
- 神霊を中心とした礼拝はとても良いと感じました。大会以上に、礼拝に力を入れていくべきだと改めて感じました。（公職者男性）